

新刊紹介

高根務著 『マラウイの小農——経済自由化とアフリカ農村』

高根 務



アジア経済研究所
2007年

東南部アフリカの小国であるマラウイは、世界で最も貧困な国のひとつである。二〇〇四年の一人あたりの国民総所得は一六〇ドルで、これは統計のある二〇八カ国のうち二〇一番目に位置する。またマラウイ政府が定める貧困ライン（一日約〇・四ドル）以下で生活する人の割合は六五％に達し、その多くが農村部に居住している。さらにこの国では天候不順に起因する不作が数年ごとに発生し、たとえば二〇〇五〜二〇〇

六年には約四〇〇万人が食糧不足におちいった。

本書はこのようなマラウイの貧困問題の諸相を、農村世帯が営む生計の実態を詳細に検討することで明らかにする試みである。先述のようなマクロな統計数値からは、「貧困」とされる農村住民の具体的な日々の生計活動の内容を知ることはできない。本書では筆者がマラウイ各地でおこなった農村調査の結果をもとに、「農村貧困問題」の背景にあるさまざまな要因の解明を試みられている。本書各章の内容は以下の通りである。まず第一章では、マラウイにおける小農生産の歴史的展開が、政府の政策変化の影響に注目して敷衍される。この章の目的は、植民地時代から現代に至るまで政府の政策が大規模農場を優遇し、その陰で小農部門が停滞した事実を示すことで、現代の農村世帯がおかれた現状の歴史的背景を明らかにすることである。

続く第二章以下では、フィールドワークで得られた知見に基づいて農村世帯の生計の実態が明らかにされる。まず第二章では、実態調査をおこなった六つの調査村それぞれの概要と調査の具体的な方法が示される。第三章では、農村世帯の重要な資産である土地の問題を取り上げ、各調査村で土地権利がいかにして取得されているのかを明らかにしている。ここで注目されているのは、在来土地制度と親族制度にもとづく土地権利の取得の実態と、国内で深刻にな

っている土地の稀少化の問題との相互関係である。同時にこの章では、土地をめぐる権利状況の地域的な相違や、在来制度の実際の運用における柔軟性・厳格性などについても検討が加えられる。

土地と並んで農村世帯の重要な資産のひとつである労働力については、第四章で検討している。この章では、農業生産における労働力の調達方法・作物別・農作業別の配分、労働契約の種類などが明らかにされるとともに、これらが農業生産におけるリスクや不確実性とう関係しているのかについても検討されている。

第五章では自営農業に注目し、その中心をなしているメイズとタバコの生産についての分析がおこなわれている。主食作物のメイズについては、経営コストおよび自家消費分の自給度などの実態が、政府の政策と関連づけながら明らかにされる。また主要換金作物であるタバコについては、その流通制度と信用制度との関係、および生産と経営コストの実態について検討されるとともに、タバコ部門における政府の改革と世帯の生計との関係が明らかにされる。

第六章では、調査世帯の所得構造と格差の実態を検討している。第五章で検討した自営農業からの所得に加え、この章では農外経済活動からの所得についても検討したうえで、農村世帯の所得構造の全体像が明らかにされる。さらに世帯間に存在する所得格差の実態に注目し、何がそ

のような格差を生じさせているのかについても検討が加えられている。

第七章では、マラウイの農村世帯の四分の一以上を占める、女性世帯主世帯について分析されている。この章では女性世帯主世帯の特徴を男性世帯主世帯との比較を通じて明らかにするとともに、「女性世帯主世帯」というカテゴリーの内部に存在する相違と格差についても言及している。さらに女性世帯主世帯の土地権利や労働力の調達方法、および農業生産や農外経済活動の特徴についても検討している。

最後の第八章では、各章における検討をふまえたまとめと結論が提示されている。

本書が全体として目指しているのは、マラウイの農村経済に特有の「個性」を描き出すことである。農村における人々の日々の経済活動は、国や地域独自の歴史と社会的経済的背景に埋め込まれた形で現出する。そのような地域独自の農村経済の特色は、同じ途上国あるいは同じアフリカの国々でもそれぞれ大きく異なっている。途上国およびアフリカの貧困削減や農村開発を語るには、それぞれの国や地域に特有の個性とそこに住む人々独自の論理をまず理解する必要がある。本書はマラウイの事例研究によって、そのような地域の個性と論理の理解に貢献しようとするものである。

（たかね つとむ／アジア経済研究所地域研究センター）